



た社会セクターとしてのNPO法人わの立場で皆様と共に活動し、今までとは違う自分を成長させたいと思っています。ご支援をよろしくお願い致します。

蘆田義和 最近、人の名前や地名が思い出せず苦勞することが多くなった。ボケ防

大震災支援と里山整備

【視点】「子供たちと共に」をキャッチフレーズに掲げる西田体制が2期目を迎えた。今期は 東日本大震災への支援、カレッジ北側の里山整備——が主要テーマに加わり、例年以上の実行力が要求される。募金や実務作業に、どれだけ賛同者を得られか、会員の協力が得られるか、が成否のカギになる。

わの予算規模は約3900万円。2つの電話相談や未来館などの委託事業収入が8割弱を占め、残る2割強を福祉関係の助成金と180万円の年会費などで補う形になっている。収支構造に変化はないが、学習支援など交通費支給の幅を広げたほか、経費のかかる企画がふえたため、前期は未来館の収支が悪化した。魅力ある入館者対策が急務だ。事業面では、水の科学館・フルーツフラワーパークでのイベントを整理、子供たちと一緒に楽しむ 催しにシフトする方向を明確に打ち出した。

会員は1200人弱だが、高齢化が進み、年々、行動力も落ちてきている。これからは団塊の世代に活動の中心が移っていくので、ボランティア活動に対する意識も変化せざるをえない。15期から理事5人が加わり、執行部も若返った。わの活動も8年目を迎え、一つの節目、変革期に入ったというべきだろう。(M)

ニーズに合った活動を 新理事の抱負

大垣廣司 グループわは、社会に幸せを還元するために設立した団体です。皆で力を出しあい、無理せず、楽しく、仲良く、元気よく活動していきたいと思っています。社会のニーズにあった活動をしていきましょう。「わ」で活動する人は全員「わ」の会員になってください。これが活動の基本だと思いますよ。

堺 汎 新理事として活動を始めさせて頂くことになりました。東日本大震災のニュースが連日のように大きく報じられています。在校時、あまり気にしなかつ

止に役に立つものと信じこみ、軽い気持ちでわ本部に入ったが、予想より業務が多く戸惑っている。また、たくさんの会員の方が、各部会や区会で多岐にわたるボランティア活動に参画され活躍されているのを知り、敬意を表すると共に少しでもお役に立てば、と思っている。

井上千加子 卒業してどうしようかな？と思っていた時、グループわへの誘いがあり、何も分からなままに入ってしまった。総務担当で、さまざまな活動のお手伝いをするようになりました。この1年は、与えられた仕事を教えて頂きながら覚えていこうと決意している次第です。

納村裕子 しあわせの村の景色に魅せられて3年、もうお終いと思った時、わにお世話になることが決まりました。もうしばらく、今まで通りの生活が続きます。卒業したら、海外旅行に行く約束をしていましたが、しばらくお預けです。わで仕事を覚え、新しいことに挑戦し、心身共に老後を全うできるように頑張りたいと思っています。

♪ 感動呼んだ難病体験トーク

総会第2部のアトラクションとして、午後1時20分から「エスペランサ」のトークコンサートがあり、約200人が奥田良子さんの闘病体験と優しいフルートの音色に耳を傾けました。

奥田さんは神戸市在住。クローン病という消化器管の難病と闘いながら、夫の勝彦さんと一緒にフルート、オカリナの演奏活動を続け全国を回っています。入退院を繰り返した20年の体験を軽妙な語り口で披露しながら、「イエスタディ」や「上を向いて歩こう」「千の風になって」など10曲を演奏。「病があっても夢を追いかけることはできる、という私の体験をぜひ、皆さんに伝えたい」とトークを締めくくり、客席からは激励と感動の大きな拍手が贈られました。(12面に感想文)